

防災実務者を対象とした人材育成講座の構築 <その2>

静岡大学防災総合センター ○横幕早季・牛山素行・大森康智・増田俊明

1. はじめに

静岡県では平成 8 年から防災士養成講座を実施し、平成 23 年度までに静岡県ふじのくに防災士（平成 22 年度に「静岡県防災士」を改名）を 1250 名輩出している。この講座の受講生は自治体・企業等での防災に関する実務に従事する防災実務者が多いことが特徴で、ふじのくに防災士取得者は相当数が実務にあたっている。防災実務の現場では、個々の状況にあわせた科学的・技術的知見の応用力が要求されるが、その育成の場は多くない。

そこで、静岡大学は静岡県と連携して平成 22 年度より、「ふじのくに防災フェロー養成講座」を開始した（横幕ほか，2012a；2012b）。この講座では自治体や企業等で災害・防災に関する実務に従事しており、ふじのくに防災士程度の基礎知識を有する者を対象にし、災害発生後の危機管理ノウハウにとどまらず、災害の事前予防を目指して、地域の特性を理解し、科学的専門知識とその情報を読み解ける実践的応用力の習得を目標としている。

原則1科目1日の形で開講される22科目の「講義・実習」と、担当教員の指導により個別の研究テーマの結果をとりまとめる「修了研修」をカリキュラムの主軸とし、1年～一年半かけて実施する。講座修了は、(1)10科目以上の講義・実習の履修、(2)学会等の専門的な研究発表の場で修了研修内容の発表、(3)講座全体のゼミである地域防災セミナーに1回以上出席、の3条件を満たすことで判定する。

募集定員は 10 名程度とし、出願期間を 12 月～翌年 1 月頃、提出された出願書類の内容を元に一次選考、口頭試問及び面接を行う二次選考と受講生の選考を行い、講座は 3 月から開始する。入学料及び受講料は無料としている。

平成 24 年 3 月に 1 期生（平成 22～23 年度生）15 名、平成 25 年 3 月に 2 期生（平成 23～24 年度生）17 名が修了した。本報では主に平成 24 年度後半以降の本講座の状況について報告する。

2. 応募者の傾向

2013 年 7 月末現在で、3 期生までの募集・選考が終了している。1 期は 53 名、2 期は 43 名、3 期は 35 名の応募者があり、それぞれ 22 名、20 名、21 名を受講生として受け入れた。応募者の年齢は 40 代を中心に 20 代から 60 代以上まで幅広い年齢層である（図 1）。居住地は、静岡大学静岡キャンパスが位置する静岡県中部が最も多い（静岡大学静岡キャンパスには実施主体があり、講義・実習を主に行う）。県内からの応募者が大多数を占める一方で、東海・関東・東北と県外からの応募も 3 期とも続いている（図 2）。所属をみると、約 3 分の一が行政関係、半数が民間企業となっている。

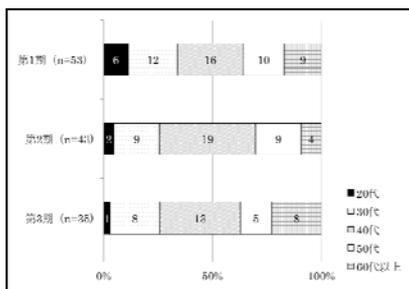


図 1. 応募者の年代構成

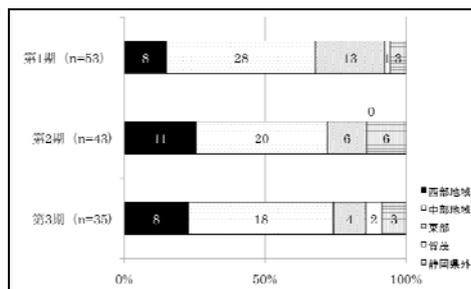


図 2. 応募者の居住地分類

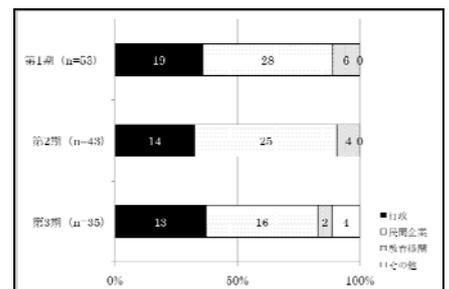


図 3. 応募者の所属分類

3. 受講生対象アンケート結果

受講生対象アンケートはメールで配信・回収する形で実施した。1期受講生は2012年1月下旬～2月上旬に実施し、対象22名中20名から回収。2期受講生は2013年3月下旬～4月上旬に実施し、対象20名中15名から回収した。どちらも同内容のアンケート調査を行っている。

受講の決め手を問う設問では「防災についてさらに学びたかった」が約半数を占め、基礎的な知識を持つ実務者への応用的な講座に対する潜在的なニーズがあることが読み取れる。1期と2期を比較すると「講座の内容が魅力的だったから」「講師陣の中に話を聞いてみたい教員がいたから」「修了研修を受けたい教員がいたから」と本講座の内容に魅力を感じる受講生が増えている(図4)。本講座の認知度の上昇と、本講座がニーズにマッチしていることが示唆される。関連して、この講座を知るきっかけを問う設問(図5)では、「職場関係者から聞いた」が2期生で大幅に増えている。受講生や受講生の関係者が職場内で本講座を推奨していることが伺える。さらに、受講にあたって勤務先からの扱いについては「職務の一環として認められていた」が微増している(図6)。本講座の趣旨からすると、防災関連の対象組織に職務・研修として認められるのが望ましいため、今後も内容の充実と共に対象組織への働きかけを続けたい。

講義・実習に関する設問(実施した曜日、1科目1日の実施形態、必修科目数、受講人数)については、いずれも「ちょうどよい」(曜日については土曜でよい)という回答が多くを占め、講義・実習におおむね好評であった。講義・実習の難易度についてはちょうどよかったという回答が多くを占めた。また、修了研修についての難易度に関する設問では「難しかった」「ちょうどよかった」がほぼ半々となった。個々に研究テーマを決めて取り組み、学会で発表するのはやや高いハードルのようである。しかし、講座全体の満足度に関する設問では「期待はずれ」という回答はほとんどなく、全員が期待通りか期待以上という回答だった。講座全体としては、高い評価が得られた。この傾向は1期も2期も同様である。

本講座において改善した方がよいと思うことには、「事前準備のいる講義・実習では、早めに連絡が欲しい」「講義・実習のレポートの評価などフィードバックが欲しい」「受講生同士や講師を交えた交流会があると良い」「複数の講師を交えた特定テーマに関する議論の機会が必要」「修了研修の成果については、学会等での発表のみならず、論文として提出を義務付けることについて検討することが望ましい」等があげられた。これらの一部については、第3期の実施に当たり、改善事項として取り入れた。

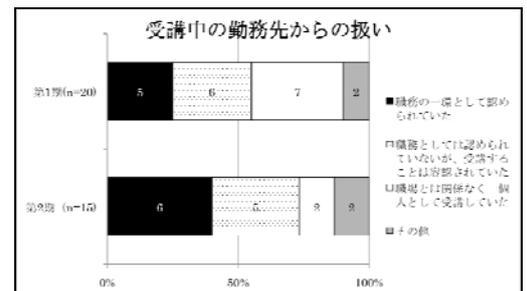
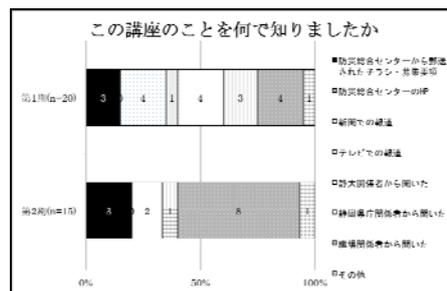
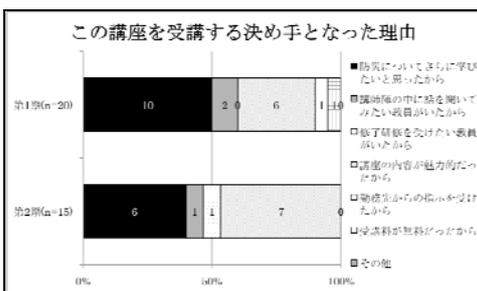


図 4. 本講座を受講する決め手

図 5. 本講座を知るきっかけ

図 6. 受講中の勤務先からの扱い

4. 今後の展望

同様なアンケートは、毎年度末に今後も実施していく。また、修了生や修了生の職場の上司等に対しても現状に関する追跡調査的なアンケートも実施しており、発表当日はその内容も報告する予定である。

参考文献

横幕早季・大森康智・牛山素行・増田俊明, 静岡県における防災実務者を対象とした人材育成講座の構築について, 平成 23 年度自然災害科学中部地区研究集会, pp. 33-34, 2012a.

第 32 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集,pp.67-68,2013 年 9 月 24 日

横幕早季・牛山素行・大森康智・佐津川貴子・増田俊明, 防災実務者を対象とした人材育成講座の構築～ふじのくに防災フェロー養成講座第一期を終えて～, 第 31 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp. 9-10, 2012b.